

# 11.12 佐藤訪米 (現地) 阻止 2部総決起集会に結集し

## 11.13 全国政治ゼネストに呼応したストライキ体制を確立し

## 11.17 羽田現地阻止斗争に進撃せよ！

主催 〈2部スト実〉  
〈2部反戦〉

機動隊常駐化による大学の「正常化」  
近代化路線を論議せよ。

現在の機動隊常駐化に於ける大学教育の「正常化」は  
このいふ由題としてたて置かれるだろう。

あつちのあつちの青年早大斗争が学費値上問題から大学  
が平和と民主主義よりまじく学問生活といふ幻想をつま  
破る「産学協同路線」に身をまかせた形で再編されてゆくことに対  
する斗争であつた。その敗北の中からは、毎年再来の早大斗争が

文学部、カルシヨア体制に、突然的に帝制主義的再編され、学  
生自身、学費値上の再生産過程としてあるが故に、学生中、進  
歩的インテリゲンチヤにあるいは「反動的インテリゲンチヤ」の生産として

おぼえて居るのだとされた資本の下への隷属、それへの個々の  
競争と合断が根拠として存在して居ることを思ひめぐらさず  
を「真に」止揚し、教員斗争を日取もたらすために闘いぬいたといえ  
るだろう。市大斗争においても「大学立憲」の施行の前に「カルシヨア」

り大阪中会で自民、共産党の結託により当局への煽動の過程が  
あり、全共斗の斗争は「カルシヨア」の申請へ向けたものであつたが故に、  
力による「正常化」が「民主的」中大の幻想をたお切る「大学」の「真実

をつきつたといふことである。  
69年11月の総決起集会に、教育斗争は「大学の自治」として「学問の自由」  
と「学問の発展」の二つを以てして向うを指し、その範囲を定め、その

全大の自衛運動の運動が「カルシヨア」革命の二翼としてあり、学生  
の闘争は「正常化」の幻想を論議してゆく斗争の衝撃力であつて、斗争はか  
政治的インテリゲンチヤを養成し、その養成せしめられたと言えらるる。

現在、早大の斗争は「正常化」の隷属状態の中に自らの運命をうすめ  
られようとしている。「正常化」の空想化による教育行政の「マジキ」を  
「カルシヨア」の隷属状態として論議せよ。

11.17 佐藤訪米 実力阻止に呼んで全力で進撃せよ！

70年選挙は、五十年ぶりに単なる衆議院の改定継続の問題でも、軍事問題に二面化  
される性格の問題として、早大斗争が太平洋戦争の歴史としてとらえらるることになり  
、歴史的保存的・反動的な社会階級も、反革命的政治的経済的軍事目的に救済

するといふことを通じての帝制主義的進出のあり、反革命の「カルシヨア」の  
進出の異相相害と、自由民主主義の特殊利害との一致も、早大の出したから  
、自衛運動体制の軌跡に示された構造的な不況の深化による早大主義の経

済手段も、後進国への資本進出と帝制主義的工場制度の確立による、労働  
者の搾取と支配の強化をもつて「解決」せんとし、その暴力的脅威に對する  
労働者階級も先頭とした諸階級、諸階級も反抗に對しては、官僚階級

軍事的統治機構の強化的なもつて変り切らんとする、白帝の「正常化」  
的対峙、対外政策の全面展開である。

11.12 2部総決起集会  
67.4.20教室  
11.17 羽田現地斗争に  
11.12 佐藤訪米阻止  
11.17 羽田現地斗争に  
11.12 佐藤訪米阻止  
11.17 羽田現地斗争に

11.12 2部総決起集会  
67.4.20教室  
11.17 羽田現地斗争に  
11.12 佐藤訪米阻止  
11.17 羽田現地斗争に